

農政調査時報

第589号 2023春

寄稿

食料輸入依存のリスクと日本の農地資源

農林中金総合研究所 理事研究員 平澤 明彦

フランスのエガリム法・エガリムⅡ法の目的と仕組み

京都大学名誉教授 新山 陽子

「人・農地関連法」の見直しの経過と施行に向けた課題(下)

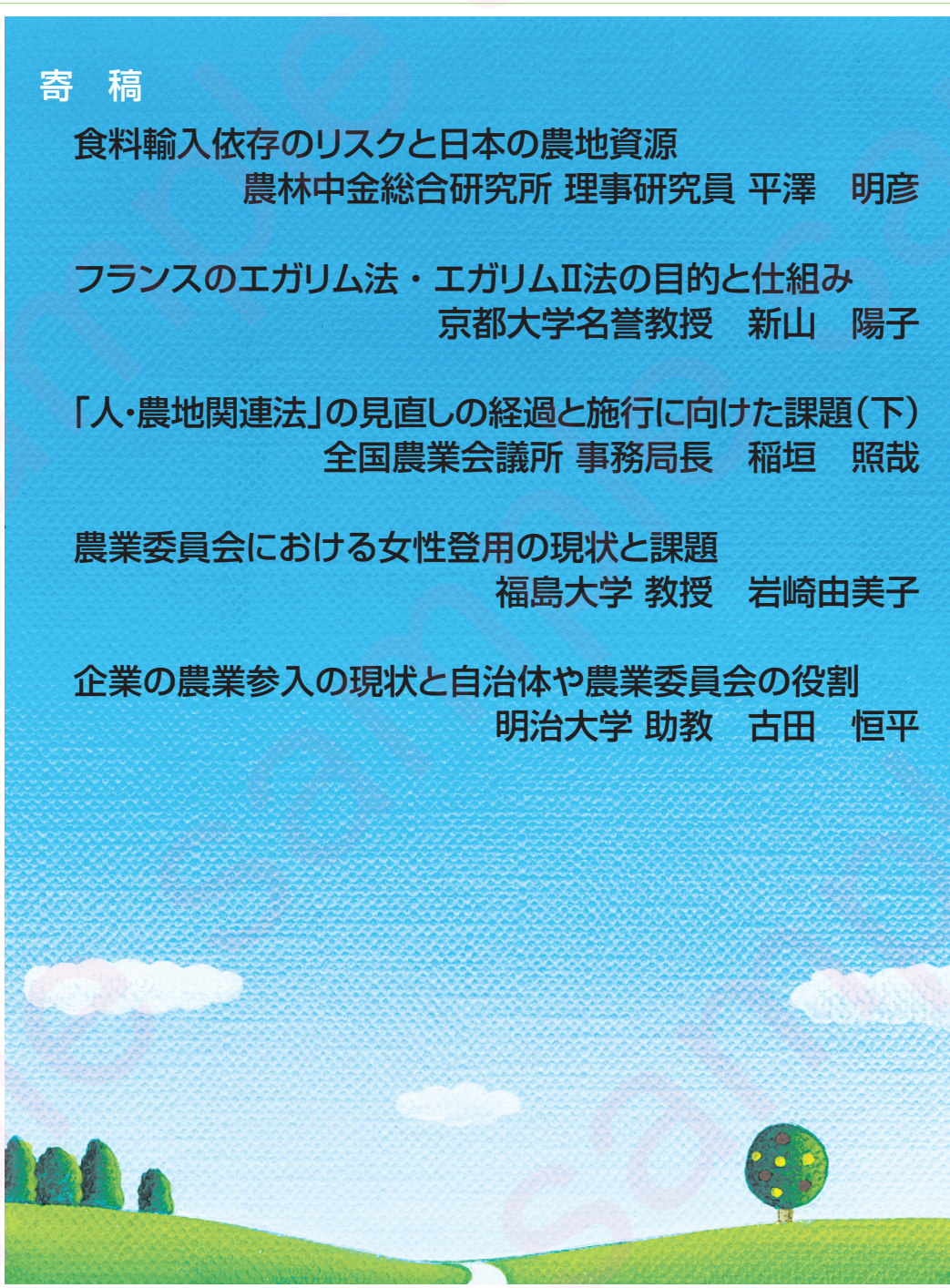
全国農業会議所 事務局長 稲垣 照哉

農業委員会における女性登用の現状と課題

福島大学 教授 岩崎由美子

企業の農業参入の現状と自治体や農業委員会の役割

明治大学 助教 古田 恒平



農政調査時報

第589号 2023春

目 次

●巻頭言	地域計画の策定に向けた徹底した話し合いを……………	1
●寄稿		
	食料輸入依存のリスクと日本の農地資源 …………… 農林中金総合研究所 理事研究員 平澤 明彦 ……	3
	フランスのエガリム法・エガリムⅡ法の目的と仕組み ～生産費を考慮した公正な農産物価格の形成に向けて～ …………… 京都大学名誉教授 新山 陽子 ……	13
	「人・農地関連法」の見直しの経過と施行に向けた課題（下） …………… 一般社団法人 全国農業会議所 事務局長 稲垣 照哉 ……	17
	農業委員会における女性登用の現状と課題 …………… 福島大学 行政政策学類 教授 岩崎由美子 ……	29
	企業の農業参入の現状と自治体や農業委員会の役割 …………… 明治大学 農学部 食料環境政策学科 助教 古田 恒平 ……	37

食料輸入依存のリスクと 日本の農地資源



農林中金総合研究所 理事研究員 平澤 明彦

わが国では昨今、新型コロナウイルス感染症の流行やウクライナ紛争を受けて食料安全保障に関する懸念が強まり、食料・農業・農村基本法の見直しに至った。日本は農産物（および農業資材）の輸入依存度が高いため、輸入不安定化のリスクには敏感に反応せざるを得ない（注1）。

しかし、食料を輸入に依存することに付随するリスクはもう一つある。それは輸入に市場を奪われた国内農業の生産基盤が縮小することであり、食料安全保障上の懸念をもたらす。そしていずれのリスクも、輸入依存が進むにつれて深刻さを増す。

本稿では輸入依存の理由と経緯を整理しそのリスクと課題を考えてみたい（注2）。輸入依存の最大の要因は農地資源の乏しさであり、それを与件とする政策も大きな影響を及ぼしてきた。また、食料危機等に関する世界の動向と日本の政策を振り返ったうえで、国内生産基盤を維持するための論点を述べたい。

（注1）2022年10月18日の食料・農業・農村政策審議会第1回基本法検証部会における農水省および寺川委員の報告を参照。

（注2）本稿の構成は概ね筆者が2022年10月18日の第1回基本法検証部会で参考人として行った報告に基づいている。各部の記述およびその前提となる世界の情勢認識についてはおもに平澤（2022b）によりつつ、新たな考察を加えた。食料安全保障に関する日本

の施策の総体については平澤（2017）を参照。

1. 日本の食料安全保障と輸入

1) 日本の基礎的条件

日本の食料安全保障および農業の基本的な規定要因は、農地資源の乏しさである（注3）。水田稲作を行うモンスーンアジア（概ね東・東南・南アジア）には、近代以前における稲作の高い人口扶養力を背景として、人口が多く、その割には人口一人当たり耕地面積の小さい国が数多くある。日本はそうした傾向が顕著であり、人口一億人以上の国としては最も一人当たり耕地が少ない（図1）。

農地資源が希少なため、農地が物理的に不足しているうえ、農業の国際競争力も低くなり、食料の輸入依存につながっている。日本の輸入食料を生産するために使われている海外の農地は、日本の農地面積の2倍に相当し、現在の食生活を前提とすれば、かなりの程度食料の輸入は必須である。一方、人口一人当たりの耕地が少ない国は、農業者当たりの耕地も少ない傾向が強い。農業の平均経営面積規模は日本、EU、米国、豪州の順に桁違いの差がある。それに加えて日本の農業は山がちな地形と分散錯圃のため効率化が容易ではない。

（注3）以下、おもに平澤（2004, 2005）による。